2Pp－3　「江戸中期の小袖の模様と色彩　その２」

－共立女子大学所蔵の小袖模様雛形本を中心として－

共立女大家政　○吉中　淑江　河村　まち子

目的　前回、共立女子大学所蔵の小袖模様雛形本を中心に調査し、江戸時代中期の小袖の模様と色彩について報告を行った。今回は、前回調査の資料（宝永～天明）に新たな資料を加え（寛永～元禄）、江戸時代中期の小袖製作に用いられた、模様表現の技法と地色の傾向について考察することを目的とした。

方法　江戸時代中期出版の小袖模様雛形本（寛文～天明）の中から小袖の地色と模様技法の記載のあるもの３７冊９３巻を資料とし、江戸時代中期を２５年間前後でおおよそ５期に分け、地色と技法をそれぞれ分類し検討した。

結果　江戸時代中期の小袖模様雛形本に表われた地色の傾向は、多少の変動はあったものの、平均して用いられた地色は、茶系統と青系統であった。模様技法でも、それぞれの時期に特徴を見ることが出来たが、平均して用いられた技法は、友禅染めと刺繍であった。これらの結果をもとに、実物小袖との比較を行ったところ、５期に分類した時期から類似した点を幾つか見い出す事が出来た。

今後、前回と今回の調査を手掛かりに、更に細かく小袖模様雛形本の分類を行い、製作年代の不明確な実物小袖の判定の手掛かりと結びつけていきたいと考えている。